

- ・ 唯一の32ビット・カードバス(CardBus)カード
  - 16ビットPCカードの4-6倍の速さ
- ・ 最適な状態で、FIFOモードで1Kバイトの転送レート
  - GPIBケーブル付(標準は 2m、オプションで 4m を用意)
- ・ GPIB-32.DLLコンパチブルで、HTBasic, HP-VEE, LabVIEW 等のアプリケーションで動作
- ・ Windows 2000/XP, VISTA, Linux対応



### 概要

「GPIB-PCMCIA-XL」は、GPIBインターフェースを持つ計測機材/機器を32-bit CardBus互換のPCMCIA TYPE II PCカード・スロットを持つノートPC(モバイル・PC)で使用できるように理想的な解決策を提供します。CardBus標準は、16ビットPCカード標準よりすぐれたパフォーマンスを提供します。バススピードでは16ビットPCカードの4-6倍の速さで、形状はPCMCIA標準サイズになっています。また3.3Vの省電力での稼働は電池使用時間を伸ばせます。トーカー、リスナー、システムコントローラといった全ての基本的なIEEE-488.1の機能をサポートしています。IEEE-488.2コンパチの機能は、IEEE-488.2規格標準に完全互換となっています。システムコントローラとして15台までの機器をコントロールできます。トーカー、リスナー(機器)として使用する場合、GPIBバスをコントロールしているコントローラとデータとステートメントのやり取りが行えます。「GPIB-PCMCIA-XL」はWindows並びにLinuxでのプログラムで操作できます。

### ハードウェア

「GPIB-PCMCIA-XL」は32-bit CardBus互換のPCMCIA TYPE II スロットに挿入し使用します。カードとGPIB機器は高品位の専用ケーブルで接続します。オプションとしてカード側に、ケーブルガードを取り付けることができます。

### ソフトウェア

[Windows] Windows用のソフトウェアは添付されています。WDM(Windows Driver Model)ドライバで全てのPC/ATコンパチPCでのWindows2000/XP/VISTAで使用できます。Visual C++, Visual Basic, MINGW並びに Delphi用のライブラリ・ヘッダーファイルも用意されています。業界標準のGPIB-32.DLLのサポートは、LabView 6以降、LabWindows、Agilent VEE、TransEra HT-Basic、Agilent Intuilink等々用に開発されたアプリケーションを含め、このインターフェースを使用したアプリケーションの対応を可能にします。

[Linux] Linux用のソフトウェアは添付されています。Intel(x86)版、Linux kernel versions 2.4 と2.6で使用できます。kernelのバージョンが同じであれば、RedHat、SuSE等からのもので使用できます。GNU Compiler Collection(GCC Version 3)を使用したアプリケーションもサポートされています。ig++クラスライブラリーは機器をコントロールするために必要な全てのインターフェースを提供します。そしてIEEE488.2/SCPIコンパチの機器はLinux組み込みシステムで使用できます。

### 仕様:

#### GPIB標準

IEEE 488.1 標準: AH1, SH1, T/TE5, L/LE3, SR1, RL1, PP1/PP2, DC1, DT1, C1, C2, C3, C4, C5

IEEE 488.2 標準: 次のバスラインをリード  
EOI, ATN, SRQ, REN, IFC, NRFD, NDAC, DAV

GPIB 通信速度: > 1Mbytes/sec

#### サイズ(ケーブル除く):

PCMCIA Type II card, 100 mm H x 320  
重さ: 30 grams, 2m ケーブル 250 grams)

#### ケーブル長(コネクタ含む):

標準2m、オプション4m

コネクタガード(オプション): SR1キット

保証: 1年

#### 動作環境:

温度・作動時: 0度C から +50度C

保存時: -20度C から +80度C

湿度・保存時: 5-95% (結露しないこと)